

大牟田市歌を演奏する北崎ひろみさん（左）と小山良子さん



# 大牟田市歌 28年ぶり復活

## 古関裕而さん作曲 市史の楽譜基にアレンジ 地元音楽家協会が披露

1964年の東京五輪の「オリンピッククマーチ」などで知られる作曲家、古関裕而さんが手掛けた大牟田市の市歌が28年ぶりによみがえった。市内外の音楽家をつくる「大牟田音楽家協会」（三宅かずみ会長、27人）が10日、市文化会館で開いたサロンコンサートで、詰めかけた市民ら約200人に披露した。元気が湧き出るようなアップテンポな曲調に、市民たちは「勇気をもらったようだ」と喜んだ。

### 「元気あふれる曲」

市歌が制作されたのは1952（昭和27）年。一般公募された歌詞には、当時の市を支えた炭鉱をたたえる言葉が織り込まれ、小学校の社会科の副読本に掲載されるなど市民に浸透していた。だが、92年の市制75周年記念式典を最後に公の

場ではほとんど演奏されなくなり、97年に市のイメージソング「チャンス」が作られた。同協会が、新型コロナウイルスの影響下で7月豪雨の復旧に取り組み市民を元気づけようとサロンコンサートを企画。その際、NH

このため市歌の再演を指したが、周囲に市歌を知ることから、大牟田高校吹奏楽部員だったフルートの北崎ひろみさん（40）と、トランプットの小山良子さん（39）が、大牟田市史下巻に載っている簡単な楽譜を基に、多少のアレンジなどを加えて演奏した。

大牟田市歌

作詞 古関裕而  
作曲 古関裕而

なほひくくくのうせとく  
せらおあいうむおほやす  
ひくあうみけのやまを

せきたんけいとーめりきん ろうのまち  
かがーくにたーてりえーいちのまち  
みまーとにあけゆーせーいさのまち  
まはーつにじーよもふつこうのまち

つせぬしげん せか たんく  
こうしうくうかま ーく  
いけいこうつな ーく  
あおきてここに きはー

大牟田市史下巻に掲載されている市歌の楽譜

K連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルになった古関さんの曲も披露することになった。代表曲の「長崎の鐘」栄冠は君に輝く」などのほか、地元の曲を探すと、大牟田高校校歌と大牟田市歌も作曲していたことが分かった。

三宅会長は「数々の名曲を生み出した名作曲家の素晴らしい作品。機会あるごとに市民に披露したい」と話した。（立山和久）